

# (敷島小) 学校 学校関係者評価書

平成29年2月20日(月)  
(敷島小学校) 学校関係者評価委員会作成

## 学校関係者評価委員会

実施日：平成29年 2月 13日(月) 午後3時30～5時00分

会 場：敷島小学校 会議室

### 参加者

#### (学校関係者評価委員)

学校評議員：小田切 道之，松土 仁郎，辻 英夫，窪田 敏子，堀端 利栄子

P T A代表：末木 康友 (P T A会長) 大島 阿子 (P T A副会長)

#### (学校側)

校 長 保坂 秀人

教 頭 竹野 貢造

教務主任 新藤 哲二

## I 学校側から提案された内容

学校側から、12月に学校において実施した「教職員自己評価」及び「児童アンケート」、「保護者アンケート」を基礎資料として分析し、まとめた「自己評価書」に基づき、次の内容について提案があった。

- (1) 学校教育目標及び学校経営方針について
- (2) 自己評価について
  - ① 全体評価
  - ② 項目ごとの評価結果について (達成状況・改善策)
    - (ア) 学校教育目標・学校経営について
    - (イ) 学校運営について
    - (ウ) 学習指導について
    - (エ) 生徒指導について
    - (オ) 地域との連携について
    - (カ) 学校の特色に関して
- (3) まとめ

## II 協議された主な内容

### 1 学校教育目標・学校経営・学校運営について

- ・教職員の自己評価 (学校経営, 学校運営, 学習指導, 生徒指導, 地域との連携, 学校の特色等) に関する各設問に対し, 平均すると95%以上の職員が「そう思う」「ややそう思う」といった肯定的な回答をしている。また, 児童アンケートの「学校は楽しいですか」の設問に対し, 全校児童の94.1%が「とても楽しい」「楽しい」と回答し, 保護者アンケートの

「お子さんにとって学校は楽しいところだと思う」の設問に対しても、「とても思う」「思う」が合わせて96.9%となっている。このことから、教職員は積極的に職務にあたっていること、児童や保護者はその教育活動に満足していることを推察することができる。

- ・P→D→C→Aサイクルで「教育活動が取り組まれている」「生かした教育活動を行っている」の両設問では、「そう思う」「ややそう思う」が合わせて、ともに100%であった。これは、常に教育活動を進化、改善しようとしている結果の表れと考える。
- ・校舎内外の施設設備の定期点検や日常の点検結果に基づく修繕等については、校舎が老朽化傾向にあることもあり、職員の意識も高く、事故防止に積極的に取り組んでいる。しかし、危機管理、特に不審者侵入に関しては、学校施設の状況（門扉の施錠や防犯設備が未整備）に引き続き課題がある。
- ・教職員の評価で「あなたは、個人情報保護・情報セキュリティの視点から、諸表簿や文書、記憶媒体を適切に管理・活用している」の設問に対し、「そう思う」「ややそう思う」が合わせて100%であった。個人情報等の取扱いに関して職員の意識の高さがうかがえる。

## 2 学習指導について

- ・教職員アンケートで「民主的で規律ある学級・学年・学校集団づくりを行っている」「個に配慮した授業を行っている」の設問に対し、両設問とも「そう思う」「ややそう思う」を合わせた数値は、90%以上であった。これは、絶えず学習習慣づくりと個に応じた指導の工夫を心がけている表れであると考えられる。このことは、児童アンケート「学校の授業は楽しいですか」の設問に対し、「とても楽しい」が46.0%、「楽しい」が43.7%、「先生はよく授業を教えてくださいか」に対し、「よく教えてくれる」が81.7%、「教えてくれる」が16.1%、といった結果と概ね合致している。また、保護者アンケートで「お子さんは、授業の内容がわかっていると思う」「学校は熱心に授業に取り組んでいると思う」の両設問に対し、「とても思う」「思う」を合わせた数値は、それぞれ87.3%、95.5%であり、本校教員の学習指導に対し、概ね満足してもらっていると捉えることができる。
- ・宿題については、保護者アンケート「お子さんは宿題を忘れずにしますか」の設問に、「いつもしている」「だいたいしている」が合わせて96.7%であった。同様の児童アンケート「宿題を忘れずにしていますか」の設問に対し、「よくしている」「している」が合わせて90.6%であった。また、保護者アンケートで、宿題以外の課題に対しては、「宿題の他にも家庭で自主学習をしていますか」では、73.5%が「いつもしている」「だいたいしている」と回答している。宿題は忘れずに取り組めるが、それ以上の学習となるとその割合は7割程度であることがわかる。家庭と連携して引き続き学習意欲を高めていって欲しい。
- ・授業については「算数の授業の内容はわかりますか」という設問に94.7%の児童が「よくわかる」「わかる」と回答している。しかし、「授業中に質問や意見を言っていますか」という設問に対して、「よく言っている」「言っている」の合計は、71.2%であり、昨年度同様に他と比べて高い評価とは言えない。今後も主体的に学習に臨む態度を引き続き育成していく必要がある。

### 3 生徒指導・地域との連携・学校の特色について

- 生徒指導に関連する設問「教師と児童との関係～相談できる先生がいる」では、教職員は「児童理解のためのコミュニケーションを図っている」の設問に、「そう思う」「ややそう思う」が合わせて100%であるのに対し、児童は「もしこまったことがあったら、相談できる先生がいますか」の設問に対し、「いる」が71.7%であった。さらに保護者は「お子さんのことで相談できる先生がいますか」の設問に対し、「いる」が73.0%となっている。児童や保護者目線で考えた場合、改善の余地があることがうかがえる。教師と児童のコミュニケーションを図ること、問題行動等には引き続き組織的な対応を行うことを確認しておきたい。
- 規範意識に関連する設問「あなたは、児童生徒の規範意識をはぐくむ指導に取り組んでいる」に対し、教職員は「指導に取り組んでいる」の設問に、「そう思う」「ややそう思う」が合わせて100%であるのに対し、児童は、「学校のきまりや約束ごとを守っていますか」に対して、6.9%が「あまり守っていない」「守っていない」と回答している。道徳教育を要として更に児童の健全な心の育成を一層図ってほしい。
- 児童アンケートで「将来の夢や目標を持っていますか」の設問に対し、62.3%が「しっかり持っている」と回答している。児童の発達段階に応じて夢を持つことの大切さを教師が伝えて欲しい。
- 教職員アンケートで「あなたはPTA活動に主体的に参加しているか」の設問に、「そう思う」「ややそう思う」が合わせて92.6%であった。これに対し、保護者アンケートの結果は、「よく参加している」「参加している」が合わせて87.6%であった。教職員は各専門部等の事務局を兼ねるために参加意識が比較的高く、一方、保護者においては、参加意識に若干のばらつきがみられる。PTA組織の在り方や運営については、今後も会員一人ひとりが当事者意識を持って取り組めるようでありたい。
- 保護者や地域の方々による学習支援に関して、教職員アンケートで「教育活動の中に地域の人材や施設を活用し、地域の教育力を生かす活動を行っている」の設問に対し「そう思う」「思う」が合わせて、84.0%であった。具体的には、総合的な学習の時間や生活科の学習で多くの支援を得ている実態がある。
- 挨拶に関連して、教職員のアンケートで「進んであいさつするよう、指導に努めている」の設問に対し、「そう思う」「思う」が合わせて100%であった。児童アンケート「地域の人と出会ったらあいさつをしていますか」に対し、「よくしている」「している」が合わせて91.6%であった。保護者アンケート「ご家庭では、家族で互いに挨拶するようにしていますか」に対し、「よくしている」「している」が合わせて97%であった。また、「地域の人々に出会ったら挨拶をするように言っていますか」に対し、「よく言っている」「言っている」が合わせて87.6%であった。学校、家庭での指導と実践を引き続き行って行きたい。
- 保護者アンケート「学校は音楽活動に力を入れて取り組んでいると思う」に対し、「そう思う」「思う」が合わせて96.0%であった。全校合唱、音楽集会、合唱部の活動等、本校の音楽活動は地域や保護者によく理解され、高い評価を得ている。

## <学校関係者評価書>

### I 全体評価

- ・教職員の自己評価や児童アンケートの回答から見ると、前年度と同様、教育活動及び学校運営（学校経営、学校運営、学習指導、生徒指導、地域との連携、学校の特色等）について、「そう思う」「ややそう思う」と回答している割合がほとんど責任をもって職務に専念したととらえている。
- ・児童アンケート「学校は楽しいですか」及び保護者アンケート「お子さんにとって学校は楽しいところだと思う」に対する肯定的な回答が高く敷島小の教育活動が児童やその保護者に良く理解されている。
- ・「P→D→C→Aサイクルで教育活動が取り組まれている」「P→D→C→Aサイクルを生かした教育活動を行っている」の両設問に対し、教職員が高い意識を持って改善システムを活用し、絶えず評価、改善を行っていると評価することができる。

### II 特徴

- ・あいさつに関しては、児童が進んであいさつができるよう教職員が共通理解の下引き続き指導に努めていくこと。また、地域住民の方々、保護者にも積極的に協力してもらうことが必要である。児童が地域においても育てられていることが大切である。今後も、繰り返し指導し、「あいさつの声がひびきあう学校」「心のこもったあいさつができる児童の育成」を目指し、取り組んで欲しい。
- ・学校の特色の一つである音楽活動は保護者から高い評価を得ている。学校が特色ある活動として位置づけ、全校を挙げて取り組んでいることを保護者にもよく理解されている。良い伝統としてこれからも継承すると共にすばらしい活動を、大いに地域に発信して欲しい。

### III 今後の課題として意識されたいこと

- ・学校教育目標「知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな子どもの育成」の達成に向け、確かな学力の定着については、校内研究を中心として、指導法の更なる改善に向けた実践的な研修（研究授業中心）を積み重ねること。豊かな心の育成については、道徳の時間の指導方法の工夫改善、自然体験や勤労・奉仕体験等の体験活動を教育活動全体へ適切に位置づけること。健やかな体の育成については、体力テストの結果や児童の実態を踏まえて、引き続き異年齢集団や全校での活動を工夫し、運動の日常化を図りながら体力の向上を図ることを意識されたい。
- ・生徒指導に関して、学校があいさつの奨励など積極的に取り組んでいることは、理解できるが、下校時の様子など見ると、心ない言葉を発する児童も見られる。また、教師に対しての言葉遣いが気になることもある。大人が範となり、より一層、心の教育に努めてもらいたい。
- ・来年度も小中連携事業の中であいさつ運動に取り組んでいくとのことであるが、地域の方とも上手に連携しながら、小学生・中学生の区別なく気持ちの良いあいさつが交わされるよう取り組んで欲しい。
- ・家庭学習の推進を学校でも家庭でも図っていく必要があるが、学校から出される宿題（課題）の量が、同じ学年であってもずいぶん違うという印象を持っている。兄妹で、取り組ませ方が違っ

てしまうこともあるので声のかけ方など難しい。児童の内発的な動機付けを高める上でも、学校から出される宿題（課題）は、ある程度同じ内容・同じ量である方が望ましい。教師間で同じ歩調であって欲しい。

- 携帯電話によるトラブルが心配である。情報モラルを高める学習・指導を学校でも家庭でも行っていく必要がある。現状「携帯電話を持たせない」ことを家庭において進めることは現実的ではないので、多くの児童が所有しているという状況を踏まえた上での学習を進めていく必要がある。
- 生徒指導に関しては、これまでどおり小中で情報を共有して連携を強めて欲しい。
- 人間関係がますます希薄になりつつある今の時代である。コミュニケーション不足から起きる対人関係の問題行動を未然に防ぐ意味からも小学校時代に人と人の関わりを大切にしたい学習（活動）を推し進めていただきたい。
- 心の涵養を図る意味で、児童には自分の学校の校歌をしっかりと教えたい。校歌の変遷、歌詞の意味、長い歴史を持つ学校だからこそ児童の心の教育の一環として取り組んでもらいたい。
- 児童が群れて遊ぶ姿が昔に比べて減ってきている。本校で取り組んでいる異年齢組織での活動は、大変意味のあるものだと思うので今後も推進してほしい。
- 児童が自分自身に対していかに肯定的な思いを持てるか、学習活動に付随する評価については、児童のやる気を引き出し、児童の良い面を様々な角度から見取れるものであってほしい。

**※特記事項**     なし

**記載責任者（敷島小学校 学校関係者評価委員）**     氏名：小田切道之     印